

「建築数量積算基準・同解説（令和５年版）」の内容の一部修正について

標題図書について以下のとおり内容を一部修正致しました。

ご高配を賜りますようお願い申し上げます。

「建築数量積算基準・同解説（令和５年版）」の修正

2025年３月

頁	編章節	修正後	修正前
25	１行目	１）土台とは、柱の脚部を固定する <u>水平材</u> をいう。	１）土台とは、柱の脚部を固定する <u>横架材</u> をいう。
25	７行目	４） <u>胴差、梁、桁</u> とは、 <u>上部</u> の荷重を支える横架材をいう。	４）梁とは、 <u>上階</u> の荷重を支える横架材をいう。
25	８行目	① 胴差とは、２階以上の床の位置で、建物外周部の管柱を連結し、床梁を受ける <u>横架材</u> をいう。	① 胴差とは、２階以上の床の位置で、建物外周部の管柱を連結し、床梁を受ける <u>梁</u> をいう。
25	11行目	④ 間仕切桁とは、間仕切りに立つ管柱の頭部を連結する <u>桁</u> をいう。	④ 間仕切桁とは、間仕切りに立つ管柱の頭部を連結する <u>梁</u> をいう。
25	12行目から 13行目	⑤ 軒桁とは、建物外周部の柱の頂部を桁行方向に連結し、垂木、小屋梁、平陸梁を受ける <u>桁</u> をいう。	⑤ 軒桁とは、建物外周部の柱の頂部を桁行方向に連結し、垂木、小屋梁、平陸梁を受ける <u>梁</u> をいう。
132	３行目	１）土台とは、柱の脚部を固定する <u>水平材</u> をいう。	１）土台とは、柱の脚部を固定する <u>横架材</u> をいう。
132	９行目	４） <u>胴差、梁、桁</u> とは、 <u>上部</u> の荷重を支える横架材をいう。	４）梁とは、 <u>上階</u> の荷重を支える横架材をいう。
132	10行目	① 胴差とは、２階以上の床の位置で、建物外周部の管柱を連結し、床梁を受ける <u>横架材</u> をいう。	① 胴差とは、２階以上の床の位置で、建物外周部の管柱を連結し、床梁を受ける <u>梁</u> をいう。
132	13行目	④ 間仕切桁とは、間仕切りに立つ管柱の頭部を連結する <u>桁</u> をいう。	④ 間仕切桁とは、間仕切りに立つ管柱の頭部を連結する <u>梁</u> をいう。
132	14行目から 15行目	⑤ 軒桁とは、建物外周部の柱の頂部を桁行方向に連結し、垂木、小屋梁、平陸梁を受ける <u>桁</u> をいう。	⑤ 軒桁とは、建物外周部の柱の頂部を桁行方向に連結し、垂木、小屋梁、平陸梁を受ける <u>梁</u> をいう。
133	１行目から ５行目	４）木躯体（軸組構法）の <u>横架材</u> は、使用する場所によって、胴差、床梁、甲乙梁、間仕切桁など多くの呼称があるが、 <u>実質は非木造建築における梁に該当する機能を有するものである</u> 。なお、一般に構造図の小屋伏図に明記される軒桁や小屋梁は、軸組部材と同等の仕様を有することが多く、また建物の構造体を形成する主たる部材であることから「軸組」に区分し、屋根を支える小屋組を形成する梁（登り梁や平陸梁など）は「小屋組」に区分する。また、軒桁と交わる妻面の外周部の梁（妻梁）は、「軸組」に区分する。	４）木躯体（軸組構法）の <u>梁</u> は、使用する場所によって、胴差、床梁、甲乙梁、間仕切桁など多くの呼称がある。なお、一般に構造図の小屋伏図に明記される軒桁や小屋梁は、軸組部材と同等の仕様を有することが多く、また建物の構造体を形成する主たる部材であることから「軸組」に区分し、屋根を支える小屋組を形成する梁（登り梁や平陸梁など）は「小屋組」に区分する。また、軒桁と交わる妻面の外周部の梁（妻梁）は、「軸組」に区分する。

* 次頁以降に、新たな25頁、132頁、133頁を掲載しましたので、ご利用いただけます。

（一財）建築コスト管理システム研究所のホームページ画面はこちら

<URL> <https://www.ribc.or.jp/info/seigo/kenchikuSuryouKaisetsuR5.pdf>



- 1) 土台とは、柱の脚部を固定する水平材をいう。
 - 2) 火打土台とは、土台の隅角部を固めるための水平方向の斜材をいう。
 - 3) 柱とは、屋根、床、梁などの荷重を支える垂直材をいう。
 - ① 管柱とは、木造建物において、各階ごとに区切られている柱をいう。
 - ② 通し柱とは、2階建て以上の木造建物において、2階分にまたがって一本の材で通した柱をいう。
 - 4) 胴差、梁、桁とは、上部の荷重を支える横架材をいう。
 - ① 胴差とは、2階以上の床の位置で、建物外周部の管柱を連結し、床梁を受ける横架材をいう。
 - ② 床梁とは、2階以上で床の荷重を支える梁をいう。
 - ③ 甲乙梁とは、床梁の間にわたす小梁をいう。
 - ④ 間仕切桁とは、間仕切りに立つ管柱の頭部を連結する桁をいう。
 - ⑤ 軒桁とは、建物外周部の柱の頂部を桁行方向に連結し、垂木、小屋梁、平陸梁を受ける桁をいう。
 - ⑥ 小屋梁とは、小屋組の最下に位置し、小屋組の荷重を支える梁をいう。
 - ⑦ 火打梁とは、梁、胴差等の隅角部を固めるための水平方向の斜材をいう。
 - 5) 方杖とは、柱と横架材の交点の入隅部を固めるための斜材をいう。
 - 6) 筋かいとは、柱や梁などで作る四辺形の構面の対角線方向に入れる斜材をいう。
 - 7) 上記1)～6)のほか、軸組を構成する部材
- (3) 床 組
- 床組とは、床を支える部分をいい、次の部材とする。
- 1) 大引とは、1階の床の根太を受ける材をいう。
 - 2) 床束とは、大引の下に立つ束石又は土間に接する垂直材をいう。
 - 3) 根がらみ貫とは、床束の下方を連結する横木をいう。
 - 4) 根太掛けとは、土台や床梁等に取り付けて、根太の端部を支える材をいう。
 - 5) 根太とは、大引や床梁の上に取付けて、床板を受ける材をいう。
 - 6) 床構造用面材とは、床組を構成する構造用面材（構造用合板等）をいう。
 - 7) 上記1)～6)のほか、床組を構成する部材
- (4) 小 屋 組
- 小屋組とは、屋根を支える骨組をいい、次の部材とする。
- 1) 小屋梁（平陸梁）とは、山形トラス等の下弦の梁をいう。
 - 2) 小屋束とは、小屋組の棟木や母屋の下に立つ垂直材またトラスの上弦と下弦の間に入れる垂直材をいう。
 - 3) 登り梁（合掌）とは、小屋組の傾斜に合わせて斜めに架けられる梁または山形トラス等の上弦の梁をいう。
 - 4) 斜材とは、トラスの上弦と下弦の間に入れる斜めの材をいう。

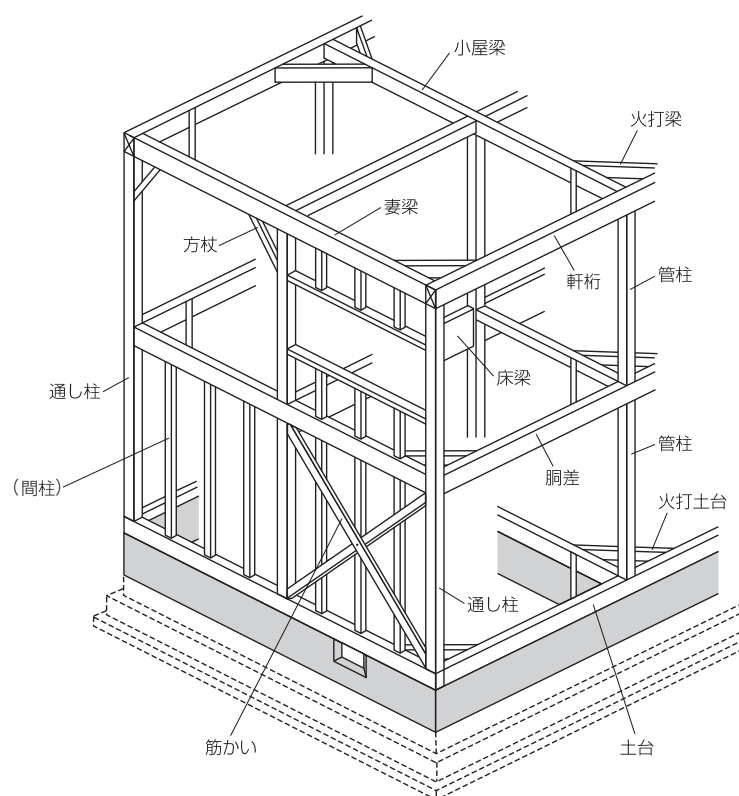
(2) 軸 組

軸組とは、土台、柱、梁などで構成する骨組をいい、次の部材とする。

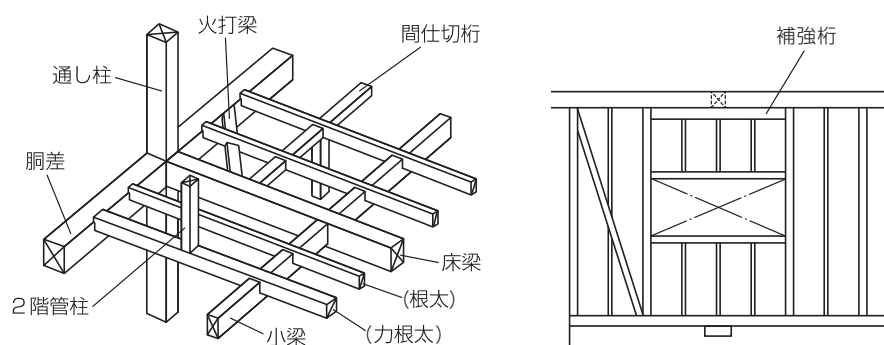
- 1) 土台とは、柱の脚部を固定する水平材をいう。
- 2) 火打土台とは、土台の隅角部を固めるための水平方向の斜材をいう。
- 3) 柱とは、屋根、床、梁などの荷重を支える垂直材をいう。
 - ① 管柱とは、木造建物において、各階ごとに区切られている柱をいう。
 - ② 通し柱とは、2階建て以上の木造建物において、2階分にまたがって一本の材で通した柱をいう。
- 4) 胴差、梁、桁とは、上部の荷重を支える横架材をいう。
 - ① 胴差とは、2階以上の床の位置で、建物外周部の管柱を連結し、床梁を受ける横架材をいう。
 - ② 床梁とは、2階以上で床の荷重を支える梁をいう。
 - ③ 甲乙梁とは、床梁の間にわたす小梁をいう。
 - ④ 間仕切桁とは、間仕切りに立つ管柱の頭部を連結する桁をいう。
 - ⑤ 軒桁とは、建物外周部の柱の頂部を桁行方向に連結し、垂木、小屋梁、平陸梁を受ける桁をいう。
 - ⑥ 小屋梁とは、小屋組の最下に位置し、小屋組の荷重を支える梁をいう。
 - ⑦ 火打梁とは、梁、胴差等の隅角部を固めるための水平方向の斜材をいう。
- 5) 方杖とは、柱と横架材の交点の入隅部を固めるための斜材をいう。
- 6) 筋かいとは、柱や梁などで作る四辺形の構面の対角線方向に入れる斜材をいう。
- 7) 上記1)～6)のほか、軸組を構成する部材

軸組を構成する主な部材の例は次のとおり。

第4編 軀 体



- 4) 木躯体（軸組構法）の横架材は、使用する場所によって、胴差、床梁、甲乙梁、間仕切桁など多くの呼称があるが、実質は非木造建築における梁に該当する機能を有するものである。なお、一般に構造図の小屋伏図に明記される軒桁や小屋梁は、軸組部材と同等の仕様を有することが多く、また建物の構造体を形成する主たる部材であることから「軸組」に区分し、屋根を支える小屋組を形成する梁（登り梁や平陸梁など）は「小屋組」に区分する。また、軒桁と交わる妻面の外周部の梁（妻梁）は、「軸組」に区分する。
- 7) 梁等の曲げ応力を部分的に補完するため、梁等の下に設ける補強桁は「軸組」に区分する。



(3) 床 組

床組とは、床を支える部分をいい、次の部材とする。

- 1) 大引とは、1階の床の根太を受ける材をいう。
- 2) 床束とは、大引の下に立つ束石又は土間に接する垂直材をいう。